

「アンケートの回答から、我々がリベラルアーツについて学生さんの意見をとらえるとは考えていない。これを根拠としてリベラルアーツ化などという使い方はしないつもりだ」(中上総務部長)

横浜市立大学教員組合

平成 15 年 8 月 20 日

7月30日の学長会見で、中上総務部長は、プロジェクト R が行った学生アンケートの結果を、リベラルアーツカレッジ化の根拠としては使わないと明言しました。

このアンケートは、実際には7月24日及び数日間、学生に調査用紙を渡しその場で回答をさせていたもので、次のような項目がありました。

質問 8 アメリカの大学の中には、学部4年間ほどの分野にも共通する幅広い教養教育(リベラルアーツ)を総合的に学び、さらに専門分野を学びたい人は各分野の大学院やロースクールなどの専門大学院に進学するシステムがあります。日本でもこのようなりベラルアーツを専門にする大学があればよいとあなたは思いますか。

この質問はきわめて誘導的で欠陥のあるものです。このような質問に対して、よいと思わないと回答する人がどれだけいるでしょう。横浜市立大学がリベラルアーツカレッジになるとよいと思いませんかという質問ならまだしも、このような質問はアンケート項目としては全く意味をなしません。

さらにアメリカのリベラルアーツカレッジは、多くの学者から批判を浴び、現在は激減してしまっています。残っている大学の中には、交通の便が悪く通学できないような所があり全寮制にしてリベラルアーツカレッジと称している所が多いのが現状です。京急金沢八景駅から歩いて数分の所にある横浜市立大学がリベラルアーツカレッジ化する必然性はありませぬ。

市大の改革案の中にリベラルアーツ化という文言がある点について、学長会見の際、教員組合が、アメリカのリベラルアーツカレッジの欠点を指摘したところ、中上総務部長は、「リベラルアーツでも、アメリカの考え方でやると話していないのに、アメリカの考え方でやるという先入観でうけとられるのは嫌だ」と述べました。しかし、このアンケートでは、実際には今は批判の方が多いのに、アメリカのリベラルアーツカレッジが理想的であるような説明をして強い印象を与えたあと、リベラルアーツカレッジをどう思うか聞いているのです。学長はこのアンケートの欠陥を認めませんでした。さすがに、中上総務部長は、このアンケートの欠陥に気づき、このアンケートの結果を、市大のリベラルアーツカレッジ化の根拠としては使わないと明言しました。